



# 地域医療連携室だより Vol.107

平成 30 年 5 月 1 日発行

発行元 地方独立行政法人

市立大津市民病院 地域医療連携室

住所 〒520-0804

滋賀県大津市本宮二丁目 9 番 9 号

TEL 077-526-8192

FAX 077-522-0192

大津市民病院

検索

## 内科統括診療部長就任の挨拶

内科統括診療部長 中尾 光成

平成 30 年 4 月から内科統括診療部長を拝命いたしました中尾と申します。私は平成 8 年に京都府立医科大学を卒業後、京都府立医科大学附属病院第三内科、京都きづ川病院等で勤務してまいりました。大津市民病院は平成 15 年 4 月より勤務させていただいており、今年で丸 15 年になります。小生は血液内科を専門領域としておりますが、当院では伝統的に腎臓内科部門、糖尿病・内分泌内科部門と併せた 3 部門を内科として診療をおこなっており、前任者の磯野よりその統括的役割を引継ぎさせていただきました。



内科疾患は原疾患のみならず様々な並存疾患や合併症を有していることも多く、また確定診断にいたるまでに多科に渡る精査が必要な場合もございます。当科では 3 部門に加えて総合内科とも協力し外来および入院診療をおこなっており、医長以上の医師においては全員が総合内科専門医を取得しております。定期的にカンファレンス等を行うことにより診療の充実を図っており、多くの地域の先生方にお役に立てているのではないかと自負しております。

一方、臨床検査部診療部長、輸血管理室長も引き続き併任させていただいております。また感染管理チームにも参加させていただいており、診療科のみならず病院全体の質の向上にも貢献して参りたい所存であります。

当院は独法化より 1 年が経過しましたが、なお一層の信頼と高めていくよう責務を果たし続けてまいります。これまでと同様に引き継ぎの地域の先生方のサポートをどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 精神・心療内科診療部長就任の挨拶

精神・心療内科診療部長 畑 讓

平成 30 年 4 月から、精神・心療内科診療部長との肩書きを頂きました畑讓と申します。医者としてより某分野で経営職をしていた年月のほうが長いのですが、医療・福祉の分野では、種々の公的医療機関での精神科・心療内科・緩和ケア科での診療や緩和ケアチーム活動、精神や緩和医療関連の教育研究、警察本部など公的機関での心理相談、NPO 法人での発達障害者支援活動などを行って参りました。



中でも精神科・心療内科では、気分障害や神経症、がん等の身体疾患に合併した精神疾患・心身症などを中心に、必要に応じて集団療法や認知行動療法なども使って診療してきました。

総合病院の精神系セクションは、身体疾患に合併した精神疾患を診ることが中心的役割になりますが、当院の地域医療連携室を通して初診予約して頂ければ、大抵の精神疾患は診療させていただきます(但し入院を要する精神症状があれば、他院紹介になります)。

いつでもどこでも何事も進化させたいと考えますので、笑顔と元気で多くの患者様の悩みを克服できるよう、工夫と努力を重ねて参りたいと思います。よろしくお願い致します。

## 循環器内科診療部長就任の挨拶

循環器内科診療部長 木股 正樹

平成 30 年 4 月から循環器内科診療部長を拝命しました木股正樹と申します。平成 22 年 4 月から市立大津市民病院に赴任し、今年で 9 年目となります。前任の田仲から引き継ぐ形ではありますが、田仲も嘱託医として診療を続けていますので、加藤、中條、木股、今井までの 5 名は変わらず、京都府立医科大学から専攻医の車古を迎えて、昨年同様 6 名で診療を行います。先代部長からの伝統として、外科と内科が連携してきちんとした循環器医療を安全に丁寧に提供していく、という姿勢は変わらずに貫いていく所存ですので、地域の先生方には安心して頂けると存じます。



心筋梗塞でも心不全でも、循環器救急は待たないですから、24 時間体制で対応しております。緊急時はどうぞ直ちにご連絡ください。急性期は当院で救命し、早期からリハビリ介入し、再発予防のための教育も行います。退院時には先生方に今後の方向性を分かりやすくお示しできるよう努めています。

患者さんと地域の先生方に益々ご信頼頂けるよう、これからも努力して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

そうは申しましても、いつまでも変わらずにとどまり続けるわけではございません。循環器領域における昨今の問題として、心不全パンデミックが挙げられます。ご高齢の心不全患者が益々増加し、多くの併存疾患や社会的問題を抱え、高率に再入院します。当院では平成 23 年から心臓リハビリテーションを立ち上げ、この問題にチームで取り組んで参りました。多職種が連携して関わることで、病と共にその人らしく自宅で生活していけることを目標に、再入院の抑制や心不全疾病管理の質の向上を図っています。

## 訪問看護ステーションの紹介



地域の皆様には、平素より大変お世話になり心より感謝申し上げます。

大津市民病院訪問看護ステーションは、別館 1 階にあり、看護師 8 名（訪問看護認定看護師 1 名在）と、作業療法士 2 名、理学療法士 1 名（一部病院リハビリテーション部兼務）、専任事務員 1 名のスタッフが在籍し、訪問看護業務に当たっています。



医療的な管理を必要とされる方が、在宅においてもその医療を継続するため、主治医との連携のもと、看護師が計画的に訪問し、医療的管理やケアを行います。24 時間緊急連絡体制により夜間や休日の緊急訪問にも対応しています。また、地域の中で最期までその人らしい療養が出来るよう、在宅での看取り支援も行っています。

### <訪問看護の内容>

- \* 症状観察と管理
- \* 床ずれの予防と処置
- \* 食事(栄養)指導管理
- \* 排泄の指導管理
- \* 清潔に関する援助
- \* リハビリテーション
- \* 医療機器・カテーテル等の管理
- \* 介護指導及び相談
- \* その他主治医の指示に基づくもの



昨年 10 月からユニフォームを新調し心機一転。  
今日も在宅で待っていただいている利用者さまの所へ向かいます。



患者さまのご紹介をお待ちしております。

# 麻酔科の紹介



麻酔科診療部長 橋口 光子

平素より地域の先生方におかれましては、市立大津市民病院の地域医療連携に格別のご理解、ご協力をいただきありがとうございます。今回は麻酔科の診療についてご紹介させていただきます。



## ■診療内容・特色

常勤麻酔科医は7名、うち2名が指導医、3名が日本麻酔科学会認定麻酔科専門医、1名が麻酔科認定医です。手術室で、時にはアンギオ室で麻酔を行っています。麻酔科はただ麻酔をかけるだけではなく、手術中の患者の安全を確保することが最も重要な業務です。近年は高齢者の手術・麻酔が多く、65歳以上が全体の50%、85歳以上が6%程あります。循環器や呼吸器などに重大な合併症のある患者さんも珍しくありませんが、安全で快適な麻酔を目指しています。また、夜間、休日における緊急手術に対しても、迅速かつ安全に麻酔できる体制を敷いております。

## ■主な症例(手術)と件数

2017年の1年間に麻酔科が管理した件数は約2400件でした。麻酔科が管理する症例は、脳、脊椎、心臓、肺、腹腔内、頭頸部、乳腺、四肢など手術部位も疾患も多彩です。最近では超音波診断装置の精度の向上により、安全かつ有効な神経ブロックが可能になり、当院でも主に四肢の骨折の手術において、積極的に神経ブロックを行っています。また、執刀医の先生方に協力していただき、術野でも効果的に鎮痛が得られる神経ブロックを行っていただいています。いずれも良好な術後鎮痛が得られるため、患者さんにとっても好評です。

## ■麻酔術前外来

手術を予定されている患者さんに対して、麻酔の方法や合併症について丁寧に説明させていただきます。心不全や呼吸不全など全身状態の悪い患者さんは、外科医から相談を受けて、患者さんやご家族とも相談しながら適切な麻酔方法を検討します。

## ■禁煙指導のお願い

患者さんがリスクを把握できていないことの一つに喫煙があります。術中・術後を通して創感染・肺合併症といった周術期合併症のリスクがあがります。かかりつけの患者さんで手術をお受けになる方がおられましたら、喫煙のリスクと禁煙の効果についてお話いただき、周術期の禁煙をご指導いただけますと幸いです。



地域医療連携室より…  
**今月の一言**

いつも笑顔の絶えないあなたは  
相手に笑顔と元気、幸せな気持ちを与えます。

楽しいから  
笑うのではなく  
笑っていたら  
楽しくなる



イラスト：まきろん



こんな看護をしています

## —認定看護師の紹介—



糖尿病療養相談外来は、糖尿病を抱え持つ方を対象に糖尿病足病変予防を目的としたフットケア、療養相談、透析予防指導などを実施する看護専門外来の位置づけにあります。2017年度は、480件のフットケア介入を含む約790件の相談・指導介入をさせていただきました。

糖尿病足病変に対するフットケアは糖尿病看護認定看護師の特化技術の1つとして掲げられています。糖尿病足病変の悪化により、足を失いQOLが低下するような方が1人でも減るように、予防的フットケアに尽力しております。



糖尿病看護認定看護師  
山下 亜希

当院で糖尿病治療を受けておられる方のみならず、地域で糖尿病治療を受けておられる方にも糖尿病足病変の予防を目的としたフットケアを受けていただく機会を提供し、地域全体で糖尿病足病変に苦しむ方への支援を図っていかねたらと願っております。

地域医療連携室を通じて、フットケアを目的とした紹介もお受けしております。よろしくお願いたします。



慢性心不全看護認定看護師  
森野 智史

日本の循環器疾患の死亡数は、癌に次いで第2位であり心不全の5年生存率は50%と予後も良いといえません。

また心不全は症状の進行から日常の活動に様々な障害が出て、QOL(生活の質)に影響を与えることもあり日常生活に非常に密着した疾患といえます。

疾患の増悪予防とともに、看護の役割は患者様の生活を確認し、患者、家族のもつ疾患への思い、疾患による生活への影響を把握することで患者、家族の生活に焦点を当て、患者様の困っていることに対し必要な情報提供や療養支援が行えるとことと考えます。

現在は入院患者に対し、退院後の安全な生活に向けた知識、技術への教育的関わりと、外来心臓リハビリテーションでの通院患者への個別性に合わせた生活調整や、症状とバイタルサインのセルフモニタリングなどセルフケア、セルフケアマネジメント向上に向けた療養生活支援に取り組んでいます。



## MSW アイコさん

作：まきろん

